随　筆

自　然　と　人

池　田　悦　治*

台風は毎年くるが，今年の台風は格別に豪雨を伴ってきたようだ．そして各地に大きな災害を起こしている．

くることが定まっているのに，どうしてこんなに多くの災害に見舞われるのだろう．何の対策も施さないで，唯暴れるにまかせているとは思えない．

これ程進んだ技術をもってしても，どうすることも出来ないなどと考えたくないわたくしは，何となく，自然の猛威と人間のいとなみ，自然科学との「なじみ」がうまく合わないだけではないだろうかと思ってみた．

一体に未来を究わめるのには，過去の現象の根源的な解明が必要である．地球が出来たのがいつで，それからの気象現象がすべて研究されている等考える人はいないであろう．それでも，天気だの，気象だのと自然科学の分析が進んでから究わめられたデータは随分の量になる筈だ．このデータを存分に使って予測した台風が，きてしまえば，一切の対策が何の役にも立っていないことに気づく．

去年も，その前も，この繰り返えしだった．何だか，人間が自然に弄ばれているのではなかろうかと錯覚する．いやそうではない．台風はやっぱり起るべくして起るし，くるべくしてきているのだ．自然はそれ程気紛れ的に運行してはいない．大自然の鉄則があって，その通りに動いているのだよと云っているのではなかろうか．

それなら人間の方が，この自然の動きに行儀を合わせて年々歳々の営みをしていったらどうだろう．春を迎えて軽い服装をし，夏になれば涼しい服装に衣替えするように，自然に逆うことなく，人間達の生活に大自然のリズムを取り入れたらどうだろう．

余りにも人間本位の立場から，ともすると自然の不行儀に腹立ってはいないだろうか．よくよく考えてみれば，台風だって，豪雨だって，そんなに不行儀ではなく，ちょっとしたはずみで或る時は強めに，又或るときは弱めな行動をしているだけで，人間の方が少しのん気過ぎているから，あわてふためかなければならぬのだと云えそうだ．

今まで台風の行状ばかりを捉えて，いろいろに工夫してみてはいかがなものかと論じてきたが，一体人間の側は，それ程に行儀よく自然への従順を守っているだろうか．

考えてみれば，人間の歴史だって随分古くて，その生活振り等に至っては，いつ頃から，そんな生活が始まったのか，頗るあいまいのようだから，自分が体験してきた年代のことを思い出してみる．

わたくし共が幼年の頃は，勿論人の数も少なかったし，今のような文化生活もなかったから，随分思い切った生活活動をしても，あの大自然の形を変えたり森や林を虐待するようなことはなかった．仮りに自然に手を加えるにしても，川をさらったり，道路を僅かに広げる位のことだった．

今日のような土木機械を持たず，一人一人が鍬や，シャベルを用いて，土や石を運ぶのにもモッコーやザルによった．しかも人間一人一人の肩と足とによっていたから，幾年経っても，山や川の形はそのままだったのである．

それがここ半世紀の間に，丘や谷や，海岸に至るまで大様変りである．いつの間にやら丘が無くなり，海岸が埋め立てられ，川は広げられたり暗渠になったり，道路に及んでは云い尽せぬ程の変りようである．

曽つては魚のすみかだった渕が埋め立てられ

*池田悦治（Etsuji IKEDA），生産技術振興協会理事長

て家が建ち，兎や野鳥のすみかだった山や森が消えて工場が並んでいる．静寂な町や村は，ひっきりなしに響き渡る自動車の警笛である．

非常におだやかな云い方をして，自然の変貌を書き連ねたけれども，この程度の人間の勝手な生活行動は，あってもいいだろう，いやあっても不思議ではない今日の文化社会である．

ところが，わたくし共が恐れるのは，所謂自然開発である．風光明媚な渓谷や，緑豊かな山林が，いとも悲惨に荒らされて，極めて安易な宅地が造成され，多くの住宅が建設されてしまう．われわれは，好んで開発を叫びここに文化生活が楽しめるのだと信じ切って，敢えてこの開発とその自然が今日の容姿を持っていることとの関係を，より深く，より緻密に，そしてもっともっと遠い昔から自然の恩恵を受けて安泰だったことを見究わめようとしないでいる．

云うならば，われわれのいささかの嬌りが，無謀とも思えるような開発をしてしまう．

その結果はどうだろう．曽つては人を育て，村を育てそして町を発展させてきた大自然が，恰も害われたことえの怒りと見えるような乱暴な行動をする．台風が豪雨をもって来て，一瞬にして，人間の英知を嘲笑しているような惨禍を惹き起こすのである．

われわれは，天をうらみ地に激怒するけれども，自然はその翌日実にさわやかな平穏の日を送ってくる．自然は云うだろう．自分達は，決して悪魔ではない．太古からいわれている通りに行動したまでだと．

われわれ人間の嬌りが，ときに屢々自然の運行を乱すような人工を加えて，これが現代の技術であり文化だ等と定めつけるものだから，とんでもない天罰をいただくことになる．

われわれが最も得意となって口にする自然の開発に技術の過信がなかったとはいえまい．

自然をこわすことは絶対に避けなければならぬ．自然を大切にして，これにすがって自然を利用することえの努力は，ゆめゆめ怠ってはならぬことだけれども，余りにも勝手をきめこんで自然を征服することは許されない．ここにエピソードがある．

エベレスト登頂に成功した登山家ヒラリーさんがいったという．世紀の登山の実写を映画に編集するとき，その「題名」を「征服」としようとした編集者に，

> わたくしはエベレストを征服したのではない．山を害わず，山にさからわず，山を撫し，山にすがり，山によって静かに登ったお蔭で，頂上をきわめることが出来た．もしわたくしが山を征服しようと思ったら，その瞬間に転落して今日の自分はなかったろう．

実に自然に対する一切の人間の営みは，ヒラリーさんのようでなければならぬ．

自然を究めることには，どんな深い研究をしてもいいけれども，この自然をわれわれの生活に取り込むのには，常に謙虚でなければならない．

余りにも生々しい台風による惨禍，具体的には豪雨禍を，それも余りに度々見聞きするものだから，一体どこにくいちがいがあるのだろうと思いつき，どうもわれわれ人間の方が少しわがままをし過ぎているのではないかと反省し，われわれの英知で，この繰り返しを止めることができる筈であると結論して，一言にいえば，大自然の運行リズムに合わせて人間の技術行動をすること．そして大自然との関係では，やっぱり支配の権利は自然にまかせた方がよいし，そうしなければ，ツケはわれわれ人間にきてしまうことの自覚が必要であるのだと悟ろう．

翻って今日大きな課題となっていることに，地球の資源の問題がある．「かけがえのない地球」が叫ばれ出して早や十年にもなろうか．

石油を始めあらゆる鉱物は有限である．人類が生存するのに必要な資源の有限性が論ぜられている中で，われわれ人間の生命に関わる「緑」を守るこえの強いのに気づく．

緑を守るどころか，われわれは日々緑をつぶしつつある．大きくつぶして，小さく緑化を試みている風がある．街路樹を育てることの大切なことはいうをまたない．けれども，われわれの木材乱伐は，極めて大面積の地球を日々砂漠化しつつあるという．

緑がなければ生存して行けないことを知りながら，何と無知な木材の消費か．育てることと

のバランスにおいて消費していかなければ，そう遠くない将来に，人類が生きていくのに充分な緑はなくなるそうだ．

ここにも自然破かいが浮び上がってくる．

われわれの安住として，自然が大切にされなければならない以上に，生命の保持に緑がかけがえのないものだから，徹底して緑を育てる自然を尊厳しなければならないと思う．

緑が皆無でも生き残れる動物は，「ゴキブリさん」と「鼠さん」だけだと聞かされて，じっと考えた．何も好んでこの大切なわれわれ人類の地球を，ゴキブリと鼠に譲らなくてもいいではないかと．

今年もまだ，来年も再来年も，いやこれからずっと，台風は豪雨をつれてやってくるにちがいない．極くあたり前の顔をして．

でも，もうあの惨禍を味わいたくない．世の自然科学者諸兄は，賢明に，ほんとうの人類の幸せのために，知恵の技術を確立されるよう望んで止まない．

九月二十五日（土）広島地方台風のニュースを耳にしつつ．

現在は、"鉄の文明"と評され、今日の世界から鉄を無くしたら、恐らく一切の文化は終息するだろうといわれています。
DNTは、創立の礎となった重防食塗料「ズボイド」を通じて既に半世紀近く私たちの大切な鉄を守りつづけてきました。
そして、これからもDNTはズボイドを生みだした重防食技術をベースに、独自の技術開発を進め、さらに、海外の優れた技術と協力しあって、より優秀な重防食システムとして結合させ、限りある資源を守りつづけていきます。

●創造と調和をめざす●

DNT
大日本塗料
●大阪市此花区西九条6-1-124
〒554☎(06)461-5371(大代)
●東京都千代田区丸の内3-3-1
〒100☎(03)216-1861(大代)